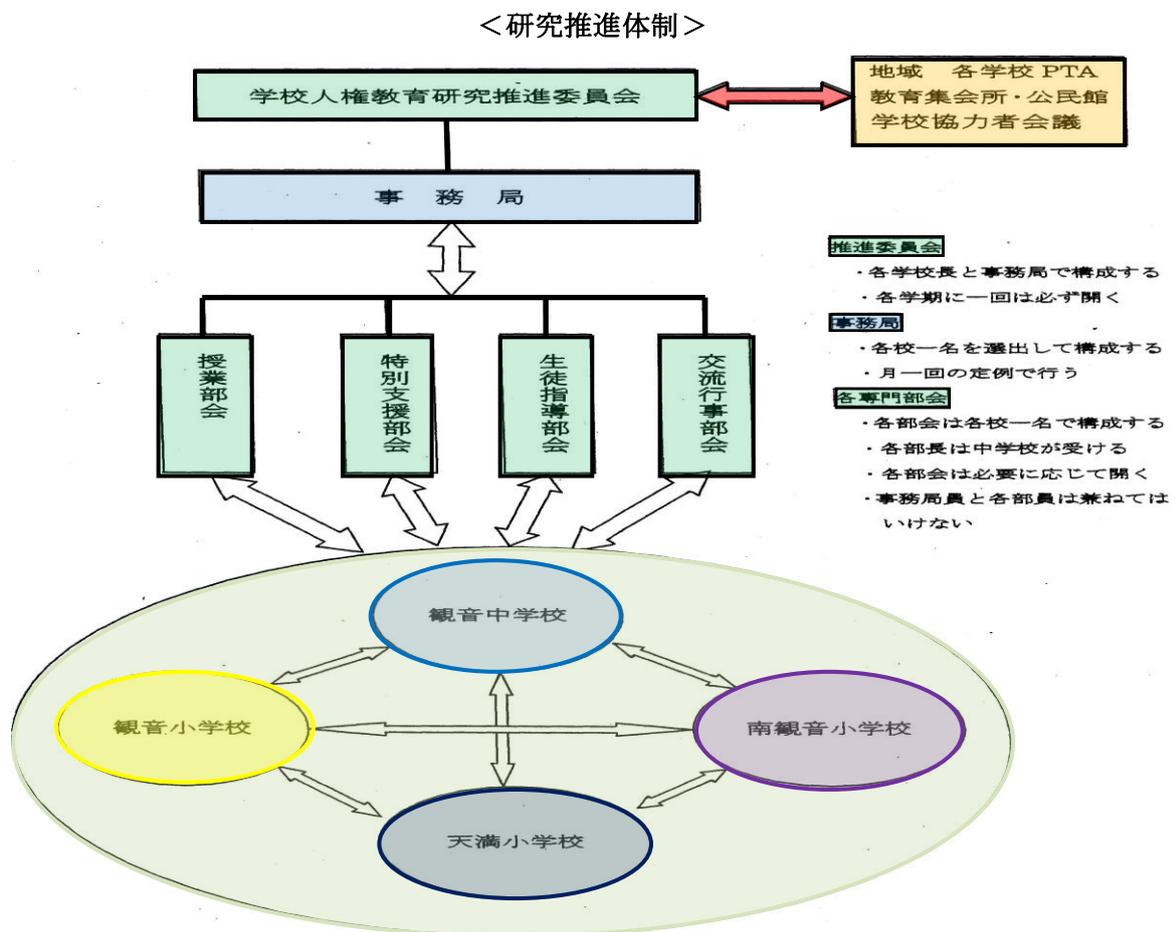


小中連携による豊かな人権感覚と 生きる力につながる学力を持った子どもの育成

1 観音中学校区の小中連携

観音中学校区の観音中学校，天満小学校，観音小学校，南観音小学校の4校は、平成13年度より本格的に小中連携に取り組み始めた。まず学校人権教育研究推進委員会を設立し、小中4校の校長と代表による事務局を置いた。平成18年からは「交流行事部会」「生徒指導部会」「特別支援部会」「授業部会」の4つの専門部会を立ち上げ、小中連携の幅を広げるとともに、小学校間の児童の実態を相互理解する小小連携をもめざすようになった。さまざまな家庭背景を抱えた子どもたちを理解し、落ち着いた学校生活を送らせるためには、小中の教職員が交流を密にし、義務教育の9年間を見据えた取り組みが必要であると考えたからである。

設立当初は事務局が殆どの活動を担っていたが、現在では事務局を中心としながらも、4つの専門部会が定期的に部会をもち、独立して活動するようになるなど、取り組みが深まってきた。



小中連携はまず小中の人間関係づくりからと言われるが、中学校区の小中教職員の約5分の1が、定期的に学校の枠を超えて交流し情報共有ができていることは、小中連携教育を進める上で非常に心強いことであり、小中9年間を通して子どもの成長を見守るという意識が教職員の間で育ってきている。

2 研究主題

観音中学校区では次のような研究主題を設定して、小中連携を進めている。

「豊かな人権感覚と生きる力につながる学力を持った子どもの育成」

- ① 生きる力につながる学力の育成
 - ・「子どもと子ども、子どもと授業者の思考のつながりが仕組みられた授業」づくりの工夫
 - ・小中連携のもとで義務教育9年間を見通した学力の育成
- ② 豊かな人権感覚の育成
 - ・多様な体験活動を通じた人権感覚の育成
 - ・義務教育9年間を見通して小中連携による一貫した生活指導

さらに各専門部会に研究テーマを振り分ける形で、研究仮説を設定している。

- ①児童生徒同士のつながりがある授業を実践することが学力向上につながる
(水平面を広げる — 授業部会)
授業の在り方を見直し、子ども同士の学び合いを増やすことで語彙を増やし、同時に仲間よさや多様性を感じさせながら学習集団をつくりあげることによって学力の伸びを期待する。
- ②適度な異年齢集団の交流を取り入れることで自尊感情が育ち主体的な考え方ができる
(垂直面を広げる — 交流行事部会)
- ③家庭での基本的な生活習慣の定着が学校生活を安定しておくことにつながる
(対策的な生徒指導から予防的な生徒指導への転換：
家庭への啓発が学校教育の効果をより高める — 生徒指導部会)

3 平成22年度の活動

5月 1年生公開授業と小中連絡会

毎年、中学校入学後1ヶ月たった生徒の様子を見るために、小学校の全教員が授業を参観している。今年度は数学、理科、英語、国語、技術家庭と特別支援学級の音楽の授業を参観、その後小学校の旧六年生担任と中学校の一学年担当と各校の生徒指導主事が参加して連絡会を持った。生徒にとっても小学校の先生に久しぶりに会って、中学生になった姿を見てもらう楽しい機会となっている。



7月 小中部活交流会

3 小学校の6年生が中学校の部活に参加して交流した。中学3年生が指導の中心となり児童にできる活動内容を準備し、中学2・1年生がサポートしながら、部活動を体験させた。異年齢集団の交流を取り入れることで、中学生にとっては自尊感情を育み、小学生にとっては中学校生活を知る良い機会であり、「中一ギャップ」を埋めるための有効な行事と位置づけて、5年前から実施している。



7月 中学校区夏季合同研修会

「豊かな人権感覚と生きる力につながる学力をもった子どもの育成」をテーマに、次のような内容で夏季合同研修会を行った。

(1) 日時・場所

7月29日(木) 西区地域福祉センター

(2) 内容

午前 講演「元気の出る学校づくり」

和歌山県上富田町立上富田中学校 元教諭 木村 慶先生

午後 「話す・聞く・書く」力をどのように育てるか

各小学校の取り組み報告と協議

講演については、参加者から「観音中学校区とよく似た地域や学校実態のもとで、学校をデザインし立て直していった取り組みを聞くことができ、大変参考になった」など、今後に向けての展望が持てたという意見が多く出された。また、午後の協議会についても「共通のテーマで具体的な取組を発表、協議することにより、小学校・中学校の連携が教育においてどれほど大きな力を発揮するかを実感した」と、小中連携に対して前向きな意見が出された。

8月 二高慰霊祭

観音中学校の生徒会が中心になって毎年8月5日に行っている第二高等小学校・国民学校の慰霊祭に、3小学校の児童会代表も参加している。平和を学ぶとともに、交流行事部会を中心とした異年齢交流の大切な取組と位置づけている。



9月・11月 広島市立観音中学校区学校人権教育研究会公開授業

「児童生徒のつながりがある授業を実践することが学力向上につながる」という仮説に沿って、小学校、中学校それぞれで公開授業研究会と協議会を行った。

(1) 研究主題

「小中連携のもとで、義務教育9年間を見通した学力の育成」

(2) 日時・場所

9月 9日（木）広島市立観音中学校
10月28日（木）広島市立観音小学校

(3) 内容

○観音中学校

学年・組	教科	単元・題材名
1年3組	言語・数理運用科	生活時間を振り返ろう
2年5組	言語・数理運用科	わたしのおすすめ宅急便
3年3組	言語・数理運用科	平和への誓い

○観音小学校

学年・組	教科	単元・題材名
2年3組	国語科	どうぶつのひみつをしらべよう 「ビーバーの大工事」
3年1組	算数科	「円と球」
6年1組	英語科	Lesson6 「ほしいもの」

協議会では小中9年間を見通して学力をつけるために、どのような取組が必要かという視点で協議を行った。授業を公開して協議することにより、具体的な子どもの姿を通して子ども同士のかかわり合いや成長を、小中の教員が共有し共通の視点を持つことができるようになった。また、協議を通して小中の教職員の人間関係も育まれてきている。

11月 中学校職場体験学習

中学2年生の職場体験学習でも、小学校3校に卒業生を受け入れてもらい職場体験を行っている。低・中学年の学級で学習指導と給食や遊びなどの活動を補佐するとともに、高学年には「中学校生活の紹介」授業として、生徒自らの視点で中学校生活についてプレゼンテーションを行い、児童に学習の大切さや中学校生活に向けての心構えを伝えた。



4 今後に向けて

小中連携の充実と共に、子どもたちが落ち着いた中学校生活を送れるようになってきた。小学生も中学校生活に対する憧れを抱くようになってきた。しかし、観音中学校区を取りまく状況には厳しいものがあり、この取組をいかに継続し発展させていくかが今後問われている。